

会議概要

1	審議会	令和5年度 第1回 安曇野市総合計画審議会
2	日時	令和5年10月5日(水) 14時00分～16時15分
3	会場	議会全員協議会室
4	出席者(敬称略)	木村会長、土肥副会長、白鳥委員、内田委員、岡江委員、尾臺委員、栗田委員、小岩井委員、高橋(秀)委員、千國委員、筒井委員、中島(完)委員、中島(美)委員、花岡委員、樋口委員、藤本委員、安井委員、依田委員、若林委員
5	説明者等	渡辺政策部長、黒岩政策経営課長、藤澤企画担当係長、柳澤企画担当主査
6	庶務担当課出席者	同上
7	公開・非公開の別	非公開
8	記者	0人
9	会議概要作成年月日	令和5年10月5日(水)

協議事項等

1. 開会

2. 会長挨拶

- ・ 近年、各種自然災害が全国的に増えている。防災減災にどう取り組むかが各自治体の大きな課題になっていると感じる。
- ・ 少子高齢化に対し予算や人をつぎ込んでも対応が追い付かないという現状がある。住民に一番近い基礎自治体としてどのような政策を打ち出すか、どこまで本気で取り組むかが、住民の生命にもかかわると感じている。
- ・ 本日は前述の内容を念頭に置きつつ、前期基本計画と総合戦略の進捗評価をしていただき、充実した議論となるようお願いしたい。

3. 説明

(政策部長)

- ・ 昨年度は第2次総合計画後期基本計画の策定にあたり、5回にわたる審議会を開催し、皆さまからいただいたご意見をもとに計画書を取りまとめることができた。ご多用の中ご協力いただき改めて感謝申し上げます。
- ・ 今年度から後期基本計画がスタートし、各種事業を進めている。中でも「価値創出プロジェクト」では、庁内横断的な推進チームを結成して、重点的な推進を図っている。
- ・ 本日は前期基本計画の取組に関する報告と、まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗評価の2件について報告させていただく。

(政策経営課長)

- ・ 4名の委員に異動があったので報告させていただく。前任者の任期を引き継ぐため、任期は令和6年3月31日までとなる。
 - ①前任：上原 康二 後任：平林 利充 (松本広域消防局 豊科消防局長)
 - ②前任：武井 学 後任：中島 美智子 (安曇野市地域包括医療協議会 会長)
 - ③前任：二村 誠一 後任：土肥 三夫 (安曇野市区長会 会長)
 - ④前任：綿貫 昭二 後任：池上 仁 (松本公共職業安定所 所長)

(会長)

- ・ 現在、副会長席が空席となっている。これまで区長会から選出された二村委員に副会長を務めていただいていたことを踏まえ、土肥委員に副会長をお願いしたいと考えているがいかがか。依存がなければ拍手で承認いただきたい。
(拍手多数)
- ・ それでは、土肥委員に副会長をお願いする。

(土肥副会長)

- ・ 皆様のご協力のもと、副会長の任を進めていきたい。

4. 会議事項 【発言者 ◎会長 ○副会長 ●委員 □政策経営課】

(1) 第2次安曇野市総合計画前期基本計画の評価について

【事務局説明】

(全体について)

- ・ 第2次総合計画前期基本計画が令和4年度をもって満了したため、その評価に関して報告させていただく。
- ・ 今回の評価は「市民意識調査」及び市が各施策で設定した「施策指標」の2点に着目し、説明する。施策に関する評価については事前に配布しているが、分量が膨大であるため、前記の2点を中心に説明する。
- ・ 今回いただいた意見を踏まえ、議会報告と市ホームページでの公表を予定している。

(市民意識調査について)

(全体について資料に沿って説明、以下概要)

- ・ 市民意識調査の結果について、前期基本計画の策定時(H28)と満了時(R4)で満足度と重要度の推移を比較した。また、重要度と満足度の差(ギャップ)も示している。
- ・ 満足度はほとんどの施策分野で上昇しており、満足度が最も伸びた基本目標は「基本目標2(産業)」であった。
- ・ 重要度は全ての施策分野で上昇しており、重要度が最も伸びた基本目標は「基本目標3(環境)」であった。
- ・ 各平均値を基準に満足度「低」、重要度「高」となった施策分野は「出産・子育て」「防災」「消費者保護」「防犯」「介護」「高齢者」「障がい者」「生活困窮者」「生活道路」「幹線道路」「市街地整備」「土地利用」「労働雇用」「男女共同」「多様性」「公共交通」の16分野であった。

(施策指標について)

- ・ 前期基本計画の基本施策で設定した指標について、結果を整理した。
- ・ 目標値を達成した指標は全体の4割。目標値には達しなかったが、策定時より改善した指標は2割であった。
- ・ コロナの影響を受け、R2から実績値が急減した指標が多数あった。
- ・ R4は一定の回復は見せたが、多くはコロナ禍前の水準には届いていない。

【質疑応答】

◎全体に関して質問があればいただきたい。

●無作為抽出で市民意識調査を実施したとのことだが、年代構成や性別の構成は均等になっているのか。それによって結果は変わってくると思われるが。

⇒完全無作為抽出のため、人口比に沿った年代構成や性別は均等になっていない。

●統計的な見地から、その差は有意差であるとか、そのような分析はできているか。

⇒統計上必要な標本数は確保しているが、有意差に関してはできていない。

●市民意識調査の結果が良ければ、施策指標の数値も連動して良くなると思うが、満足度と重要度の差（ギャップ）が大きいものでも、指標の達成率は100%など、一致していないものが散見される。この点について、後期基本計画の策定時にあまり議論がされていなかったように思われるが、後期計画がこのように連動していないものになっていないか心配である。

◎目標設定がそもそも適切であったかという問題にもなりうるが、その点に事務局の考えはどうか。

⇒難しい問題ではあるが、単年度で実施できる施策と市民の評価がイコールにならない場合もありうる。満足度と重要度の差（ギャップ）が大きい分野については、今後取り組む必要があると考えている。

●後期基本計画の策定時に、この計画を柱として各施策に展開していくと聞いているが、それについてはどうか。

⇒目標を立てて達成したが、アンケートをみると市民の満足度と連動していないという点はある。昨年度検討いただいた数値が適切なものかは毎年確認していく必要があると考えている。市内部では、年に1回市民意識調査を含む行政評価を実施し、評価を行っており、そこでズレ等を確認し、都度修正している。

●実際の指標でみてみると、「教育・保育における認可施設数」という指標があるが、これは初年度に達成されている。指標が達成されているものに対しては予算をつけず、その分を別の分野に予算を回しているということか。

⇒必要に応じて予算付けを行っている。

●初年度に目標値を達成していれば、その分野に予算を回さず、不足しているところに回すべきと考える。

●数値目標は達成できているが、市民の満足度は低い。その点の検証を進める必要があると思われる。例えば、数値目標という数的な部分だけでなく、質的な部分をどう上げていくのかが重要であると考えている。

⇒お配りしている施策評価やその元となっている事務事業の評価では、数値以外のものも評価を実施はしている。

●その点について、数値以外に見える化できるものを示す必要があると感じる。

⇒参考にさせていただく。

◎昨年度の後期基本計画の策定時点で R4 の市民意識調査の結果を出せていればよかったと思われる。実施時期を繰り上げる等検討いただきたい。

●満足度と重要度の差（ギャップ）について、どこまで有効であるか難しいと感じる部分もある。一概に、重要度については重要と答える人が多いので差は付きにくいのではないかと。一方、満足度はかなり上下すると考えられるため、満足度と重要度の差を見ることが、満足度以上の意味を常に持つかは難しいと感じる。達成度と満足度の差や関係を示す数値が出てくれば判断しやすいのではないかと。

⇒参考にさせていただく。

○基本目標1「避難行動要支援者名簿提供同意率」について、新型コロナの影響が多いという表現となっているが、区が市から依頼を受けて名簿提供の依頼を受けており、コロナは直接関係ないと思われる。

なぜこのような理由付けになっているのか私には理解できない。その理由を教えてください。

⇒理由について確認し、改めてお伝えする。

◎要支援者名簿の課題については、コロナ前から低下しているため、確認をお願いしたい。

●施策指標の達成率について、A～C評価と指標の数値達成率（%）が混在しているためわかりにくいと感じる。言わんとすることは理解できるが説明にひと手間かかるため、見せ方について工夫をお願いしたい。

⇒ご指摘のとおりと考える。指標達成率の代わりにA～C評価の割合で見せるなどしたい。

○散布図に関して、コミュニティ活動に対する満足度がなぜここまで低いのか理解できない。市は原因を分析しているか。

⇒生活スタイルや価値観の多様化に伴い、区に対する価値観も従来から変化していることが一因であると考えている。何をもちいて分析とするかにもよるが、所管課に確認を取りたい。

◎区への加入については自治基本条例にも記載されているので、次期まちづくり計画の策定時などに確認を取るようお願いしたい。

【説明】

（基本目標1 市民意識調査について）

- ・ 満足度の差（推移）をみると、「健康づくり」の満足度の伸びが0.50と最も高く、次いで「生活困窮者支援」が0.34、「医療体制」が0.32と続く。
- ・ 満足度について、「基本目標1」に関する分野はH28時は総じて満足度が低い傾向であったが、多くの分野で高い伸びがみられる。
- ・ 重要度について、「男女共同参画」の増加幅が0.25と最も高く、次いで「多様性の尊重」が0.23となっており、共生社会づくりへの関心の高まりがうかがえる。
- ・ 「出産・子育て支援」の満足度は0.05低下した。「出産・子育て支援」の重要度はR4時の全分野中、生活環境と並んで最も高い。

（基本目標1 施策指標について）

- ・ C評価となった指標は「特定健康診査受診率」、「夜間急病センター受診者数」、「地域生活への移行者数」、「審議会・委員会などに占める女性委員の割合」、「避難行動要支援者名簿提供同意率」、「ボランティア登録者数」、「乳幼児健診受診率」の7つとなった。
- ・ 多くの分野でコロナの影響を受けているとみられる。

【質疑応答】

●「審議会・委員会などに占める女性委員の割合」が未達成となっている。今後、達成に向けてどのような取組を考えているか。

⇒目標値に達しない現状を踏まえ、今年度から委員を任命する際に男女比を調査し、目標値に達していない場合理由を記載するなどの仕組みを導入し、男女比を意識するよう努めている。

●この審議会もそうだが、団体の代表者を選任するとなると大方男性になる。今まで通りの選任方法で変わらないのではないか。その点について具体的な対策がなければならないのではないか。

⇒ご指摘のとおり、団体に依頼すると男性の長が多くを占めるのが現状となっている。この状況に対して、組織に選任を依頼する際は、必ずしも長ではなく、女性の推薦をお願いする方向で考えている。急激に女性の比率を上げることは難しいため、徐々に比率を上げていきたいと考えている。

◎他自治体などでは、正式依頼とは別に、担当者レベルで女性の推薦を依頼するケースもある。このような手法でも女性比率は上がっている。

⇒参考にさせていただく。

●介護支援についてお話をさせていただく。先日、市の認知症サポーター養成講座を受講させていただいた。今5人に1人、今後4人に1人が認知症になり、安曇野市も同様の状況と聞いている。認知症サポーターの受講者のメインはシニア層が占めている。今後は、教育の中身として、若年層が高齢者福祉の現状を知り、伝えていく必要があることを切に感じている。

⇒教育で扱う高齢者福祉の重要性について、担当課と共有させていただく。

◎前期基本計画の高齢者福祉に関する施策指標は「健康長寿のまちづくり推進事業補助金交付団体数」と「介護予防のための自主活動グループ数」の2つになっている。この内容を反映させていくには、認知症に関わる指標を加えるなどしていく必要があるのではないかと。

●若い人が住みよいまちにしていくために、以前、保育所の数は充足しているという話を聞いたが、市民の要望は単に仕事の都合で預けたいというだけでなく、子どもの仲間づくりなどに生かしたいという要望も聞いている。保育所でなくても、親子同士が集える場が欲しいという希望がある。この点について行政としても支援の充実をお願いしたい。

⇒本市では子育ての部局で子ども子育て会議を開催しており、共有させていただく。

●男女共同や性的マイノリティといった分野について、講演会などに来てくれる方は意識が高い方が多いが、それ以外の市民への浸透が重要になると考えている。地区や公民館単位での学習の場を展開できないか、検討をお願いしたい。また、企業に対する啓発や性的マイノリティの方々に配慮したトイレの設置など、重要度と満足度のギャップを埋める必要があると考えている。

⇒ご指摘のとおり多くの方々に啓発が必要であると考えている。今年度はパンフレットを作成し、多方面に啓発を展開していくなど、着実に進めていきたい。

【説明】

(基本目標 2 市民意識調査について)

- ・ 満足度の差（推移）をみると、「商業振興」の満足度の伸びが 0.57 と最も高く、次いで「工業振興」が 0.52、「労働・雇用環境」が 0.37 と続く。
- ・ 満足度について、「基本目標 2」は、全基本目標の中で最も満足度が向上しており、前述の 3 分野が大きな要因となっている。
- ・ 重要度の差（推移）をみると、「工業振興」が 0.26 と最も増加幅が高く、次いで「労働・雇用環境」が 0.13、「商業振興」が 0.10 と続く。

(基本目標 2 施策指標について)

- ・ C 評価となった指標は「安曇野わさびの地理的表示（GI）取得数」、「観光消費額」、「外国人宿泊者数」の 3 つとなった。
観光分野でコロナの影響を大きく受けており、「観光消費額」や「外国人宿泊者数」に大きな影響を与えている。

【質疑応答】

- ・ なし

【説明】

(基本目標 3 市民意識調査について)

- ・ 満足度の差（推移）をみると、「ごみの減量」の満足度の伸びが 0.29 と最も大きく、次いで「自然環境」が 0.21 と続く。
- ・ 重要度の差（推移）をみると、「自然エネルギーの普及」が 0.29 と最も増加幅が高く、次いで「自然環境」が 0.24 と続く。なお、「基本目標 3」の重要度の増加幅は、基本目標の中で最も高くなっている。

(基本目標 3 施策指標について)

- ・ C 評価となった指標は「環境学習の参加者数」、「特定外来生物駆除活動の参加者数」、「1 人 1 日あたりのごみ排出量」の 3 つとなった。

【質疑応答】

- 1 日あたりのごみの排出量について、家庭ごみだけか。事業用のものも含まれているか。
⇒両方含まれている数値となっている。
- コロナ禍で家庭ごみが増えたことに対して、事業所のゴミは減っていると思われるが、その点についても踏まえて分析をしていただきたい。
⇒確認して再度お伝えする。

【説明】

(基本目標 4 市民意識調査について)

- ・ 満足度の差（推移）をみると、「防災対策」の満足度の伸びが 0.50 と最も大きく、次いで「市街地整備」が 0.34、「計画的な土地利用」が 0.31 と続く。特に「防災対策」に関

しては、全分野の中で伸び率が高い。

- ・ 重要度の差（推移）をみると、最も増加幅が大きい分野が「防災対策」、「交通安全」、「計画的な土地利用」となり、いずれも 0.15 増加となった。

（基本目標 4 施策指標について）

- ・ C 評価となった指標は「防災訓練参加者数」、「消費者講座回数」、「消費者講座参加者数」、「都市計画道路整備率」、「あづみん（デマンド交通）の利用者数」の 5 つとなった。

【質疑応答】

- 市民意識調査「公共交通網」について、重要性が高い一方、市民満足度が低くなっている。利便性の向上を図るため、MaaS の導入などの取り組みを加速していけないか。

⇒ 現在、デマンド交通「あづみん」の AI ルート選定やキャッシュレス決済などを導入している。また、MaaS については、「あづみん」だけでなく、多様な交通機関を繋いでいきたいと考えている。さらに市だけでなく、県との連携についても検討を進めている。これらの取組が満足度の向上につながれると考えている。

- 県など広域連携は重要と考えているので連携を取りつつ進めていただきたい。

- 市はゼロカーボンシティ宣言を行ったが、空調などの使い方に関する講習や啓発を行ったかどうか。また、冷房導入に関する補助金があればいいと考える。加えて、また、ゼロカーボンに関する専門部署等の設置についても検討する必要があるのではないか。

⇒ ご意見について、庁内で共有、参考にさせていただく。

- 専門部署について、環境審議会としても市に要望書を提出したところである。今後の結論はどうかかわからないが、このような動きがあるということを共有させていただく。

- コロナに対しての影響の分析はできているか。全体的な傾向として、未達成であった指標に対しては、コロナを原因としているものが多い。一方、「市内の交通事故（人身事故）発生件数の増減率」、「市内の刑法犯認知件数」、「移住支援による移住者数（累計）」などは目標達成となっているが、これらもコロナにより外出が減ったことや地方回帰が進んだことも影響していることが考えられる。この分析でよいか、精査が必要ではないか。

⇒ ご指摘の通り、コロナに対する評価が十分にできたうえでのコメントとはなっていない。ご意見参考にさせていただくとともに、見直したい。

【説明】

（基本目標 5 市民意識調査について）

- ・ 満足度の差（推移）をみると、「文化・芸術」の満足度の伸びが 0.38 と最も大きく、次いで「スポーツ」が 0.37、「生涯学習」が 0.28 と続く。
- ・ 「基本目標 5」の満足度のほとんどが大幅に増加しており、基本目標の中でも満足度の伸び率が最も高くなっている。

（基本目標 5 施策指標について）

- ・ 重要度の差（推移）をみると、「生涯学習」が 0.17 と最も増加幅が高く、次いで「学校教育」と「学校と地域・家庭の連携」がともに 0.15 と続く。なお、「基本目標 5」の重

要度の増加幅は、基本目標の中で最も緩やかになっている。

【質疑応答】

- ・ なし

【説明】

(経営方針 市民意識調査について)

- ・ 満足度の差(推移)をみると、「地域の情報化」の満足度の伸びが0.42と最も大きく、次いで「市民参画」が0.27と続く。

(経営方針 施策指標について)

- ・ 重要度の差(推移)をみると、「地域の情報化」が0.12と最も増加幅が高い。総じて、「経営方針」に対する重要度の伸びは緩やかになっている。

【質疑応答】

- ・ なし

(2) 令和4年度 第2期安曇野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗評価について

【説明】

◆数値目標(上位指標)の評価について

- ・ 全5つの数値目標のうち、達成できた(A評価となった)目標は「生産年齢人口に占める就労者数の割合」、「認定農業者数」、「社会増減数」の3つであった。
- ・ 「社会増減数(人)」は目標を大きく上回ったが、「自然増減数(人)」は目標値を達成できず、その乖離も大きかった。

◆KPI(下位指標)の評価

- ・ 全24のKPIのうち、達成できた(A評価となった)KPIは11であった。
- ・ 総合戦略は経済活動に関するKPIが多く、コロナ禍による影響を受け、「C評価」や「測定不能」となったものが複数みられた。

◆今後

- ・ 今回いただいた意見を踏まえ、議会報告と市ホームページでの公表を予定している。
- ・ 後期基本計画(R5)から総合戦略を総合計画と統合したため、次年度以降は総合計画の進捗評価(行政評価)をもって総合戦略の進捗評価とする。

【質疑応答】

- 前期基本計画と同様に、数値目標とKPIの評価の乖離が多くみられる。例えば、基本目標2の数値目標はA評価だが、それに紐づくKPIはA評価が1つのみなど。後期基本計画を含め整合性が取れる指標を考えていただきたい。

⇒上位指標が下位指標に完全に連動するものではないと考えている。ただ、ちぐはぐな状態が続くなどであれば解消すべきと思われる。また、総合計画の指標について再度話があったが、今回の後期基本計画はそのようなことがないよう、指標設定の理由を含め委員の皆様様に審議していただいている。今後進捗評価を進めていく中で、他にふさわしい指標があれば次期計画に反映していきたい。

- 基本目標3の数値目標「自然増減数」について、総合戦略の中では子育て施策について記載はあるが、死亡数の緩和に関する記載はない。それであれば数値目標は「出生数」にすべきではないか。

⇒ご指摘のとおりと考える。ただ、令和5年度以降の総合計画に統合された総合戦略では、子育て施策に限らず、高齢者福祉や健康推進といった多方面から「自然増減数」の減少緩和を目指す建付けとしている。

- 基本目標3の数値目標「自然増減数」は目標値から取り下げたのか。

⇒取り下げしていない。目標人口の見直しに伴い目標数値は変更している。

- 基本目標3「安心して出産し子育てできるまちをつくる」について、非常に重要と考える。その前段階として、未婚化、晩婚化に関する点は重要と考える。令和4年度時点の総合戦略にはないが、その点について、行政からアプローチしていただければ。取組自体は難しいと考えるが、ぜひ検討していただきたい。

⇒後期基本計画では未婚率化、晩婚化が進むことを課題として捉え、方針を策定し取組（令和5年度から結婚新生活に関する助成金を開始など）を進めている。

- 現在子育てをしている方への支援は議論になりやすいが、その前段階の結婚の部分は後回しになりやすい。ぜひ前に出して進めていただきたい。

- 性的マイノリティの方が使いやすいトイレの話が先ほど挙げたが、障がい福祉の分野でも有効となる。公園のトイレに関しても、公園を管理する部署だけの話ではない。ユニバーサルデザインのトイレがあれば、観光客などが来ることにもつながる。そういう部分が全て関連しているということを理解いただきたい。

⇒ご指摘の通りと考える。現在市では、トイレも含めユニバーサルデザイン導入の指針を作成している。順次進めていきたいと考えている。

- 窓口と話すとその課だけでとどまり、他の課と共有されないという経験もあった。その点政策部を中心に共有いただきたい。

◎今回出た意見を担当課と共有、協議していただきたい。

5. その他

- ・ 今回の審議会では、全庁的な共有について特にご意見をいただいたが、現在部局横断的に推進している価値創出プロジェクトチームをはじめ、共有を図っていきたい。
- ・ 委員の任期がR6.3.31（2年間）までとなっている。また後日になるが、委員の選任についてお願いする必要があるため、その際にご協力をお願いしたい。

5. 閉会